



2024年 10月号

発行：株式会社プロジェクト・エース

〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北 1-36-9 エールハイム 202

毎月1日発行 通算2号

年間購読料：5,500円（税込）1部550円

杉並区議会（井口かつ子議長・大槻城一副議長）の第3回定例会が9月10日午後1時からの本会議を皮切りに37日間にわたって開会した。区長からは4件の条例、3件の契約、補正予算、決算など36の議案が提出された。10日から17日まで議場で行われた本会議では24名の議員が一般質問で登壇。18日からは区民生活、保健福祉など分野ごとの常任委員会、特別委員会のほか、10月2日からは決算特別委員会が開催される。

以下、各議員の一般質問と答弁からいくつかのトピックスを取り上げる（登壇順に9名・敬称略、以降は次号掲載）。

山田 耕平（日本共産党杉並区議団）

岸本区政の2年間の取り組みと今後について

- ①物価高騰のもとでの区民生活支援について
- ②さらなる住民福祉の向上について
- ③住民自治・対話によるまちづくりの転換について

▶物価高騰対策として、区では中小企業、高齢者施設への支援、省エネ家電買換え助成などを行った。プレミアム商品券配布については、調査対象6割の商店が売り上げアップにつながらず、事務業務が増えた等の問題もあり、区としては配布の予定はない。

▶中学3年生全員に対する修学旅行費の助成については、前区長時代の令和2年、区立学校に一人1台タブレット端末を配布する取り組みを開始した際に、中止された。その再開についての質問があったが、就学援助などの支援を行っており再開する考えはない。

▶0～18歳子どもたちの居場所（サードプレイス）としての「児童館」について、区の施設再編計画の中で一部が廃止されているところだが、「中学校区に無いところには新たに整備する」との方針が明らかにされた。

児童館は前区長時代の再編計画で41か所から25か所に削減された。岸本聡子区長は山本区議（共産）の質問に対する答弁という形で、「児童館が無い中学校区に新設」という方針を明らかにした。

これに対し脇坂区議（自民）は、大きな方針変更であり、質問への答弁ではなく、区長として主体的に発表すべき事案ではないのか、と発言。

与党議員の質問に答える形で大事なことを表明する、というのは今後も続く慣例なのかと考えさせられた。（中田）

ほらぐち ともこ（都政を革新する会）

- ①区長の政治姿勢について
- ②自治体労働者の労働問題について

▶区内中学3年生を平和学習のため広島に派遣、8月6日の平和記念式典には岸本聡子区長とともに参加したほか、広島市の平和記念公園、大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）などを訪れた。これに対し、戦艦大和を題材にした施設であることなどに否定的な意見を述べた。

▶本年度から実施されている「子ども誰でも通園」制度は区内在住で保育所などに通っていない3歳未満の子どものために、各保育所の空き定員分を利用して預かるも

杉並区議会 定例会開催

～9月10日から10月16日の37日間～



岸本聡子杉並区長の開会あいさつ

ので、親の就労要件にかかわらず月に10時間まで利用できる。10月から対象施設を拡充し、区立・私立保育園18施設と一部の幼稚園で実施。8月1日から218人の枠を募集している。保育士の労働環境の観点からの質問に対して、区立保育園では、令和2年に常勤職員177名、非常勤129名（計306名）、現在は常勤210名、非常勤98名（計308名）で対応し、超過勤務は月平均で一人が約9時間との状況を説明した。

脇坂 たつや（杉並区議会自由民主党）

- ①さとこビジョンについて
- ②夏の暑さ対策について

▶岸本聡子区長の公約である「さとこビジョン」は自身の選挙を通じて出会った区民・支援者の声を参考に積み上げたものとされているが、このたび達成率48.5%として政策の進捗状況を公表。区長は「様々な課題を、区政の中で議論するアジェンダとしてまとめていったもので、更新、修正はあり得る。地域住民が共に学び考えを出し合っていくもの」とし、「既存の区の基本構想は尊重するものだが、その実現プロセスは見直すべきと考える。改選前（達成率のため）に駆け込み予算を組むようなことはしない」と述べた。

▶この6月～8月、区内で真夏日は61日、猛暑日は19日、気温25度超が37日。救急搬送も250件と昨年を上回る状況。質問では特に働く現場での熱中症対策、高齢者



への対策、教育現場や屋外公共施設での運動における対応策を問うほか、熱中症対策ガイドラインを区としても定めるべきではないかと主張。区としては、熱中症は予防できる疾患であり、適切なエアコンの使用、水分・塩分の補給、暑い中あるいは屋外での活動への注意喚起などを様々な場面で行うものの、区民が判断するものとして独自のガイドライン策定は予定していないと答えている。気候変動対策、災害対策としての重要性は認めているものの、基本的には各自の判断、注意喚起に力点を置く説明に終始した。

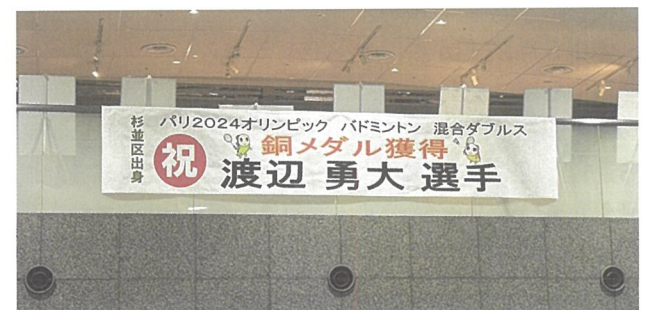
気候変動、環境問題に造詣の深い区長から109ヶ所の「涼み処設置」以外のビジョンが聴けるか期待していたが、熱中症対策はやはり「自己防衛・個人の努力」が大きいようで、今年の災害級の暑さの経験を私たちは今後どう活かすのか、振り返って考えることを意識しなければならない。（中田）

松本 みつひろ（維新・無所属議員団）

- ①NEXT GIGA 端末について
 - 1) 今年度の調達
 - 2) 機能要件とOS
- ②公道移管について
- ③学校給食費について
- ④区内出身のオリンピック出場選手に関する区の対応について

▶私道上の放置自転車は、道路所有者も勝手に公道に出せば不法投棄をしたことになってしまう。そこで対策のひとつとして、私道所有者の合意形成による「放置禁止区域指定」または「公道移管」がある。建築基準法上の道路のうち「私道」の区内延長は263km。令和元年以降に公道移管されたのは、区道となった1件174m、区有通路としたのが4件491m。

▶先般行われたパリオリンピックでは杉並区に縁のあるアスリートとして桃井第一小学校出身のバドミントン・渡辺勇大（わたなべ ゆうた）選手がおり、東野有紗選手とのミックスダブルスで銅メダリストとなった。杉並区では公式Xやホームページのほか、区役所庁舎内ロビーに横断幕を設置。ミックスダブルスだったが渡辺選手しか名前が出ていなかったことについて、区は、掲出スペースの問題などと説明している。松本議員は少々配慮が足りなかったのではと指摘。



現在杉並区では「自転車フレンドリープロジェクト」として区長自らがエコな乗り物をアピール。放置自転車対策や事故防止・安全利用についてもPRは必要なのである。（中田）

渡辺 富士雄（杉並区議会公明党）

- ①杉並区デジタル化推進計画について
- ②学校部活動とスポーツ振興について
- ③学校問題解決のための支援体制について

▶杉並区の第2次デジタル化計画に従い、現在2,700ある行政手続きのうち、法的な制約等のない700手続きがデジタル化可能で、302が実施済み。今後さらに待ち時間の短縮、ワンストップ対応可能、キャッシュレス決済も視野に入れて整備することを提案。区としては現時点でキャッシュレス決済をいつまでに何を対象にするかといった方針は無く、公共施設へのWi-Fi設置を段階的に進め、来年1月に区のホームページリニューアルを予定しているほか、デジタルポータルサイト構築も検討し

ているといった内容が説明された。

▶学校部活動の見直しは、①中学生の主体性尊重、②教員が関わらない、③保護者負担の軽減、を主眼に運動部活動と地域クラブなどとの地域連携を重視しようというもの。放課後の過ごし方や生徒の居場所の問題にも関係する部活動だが、令和5年の区立中学23校166の部活動のうち「運動部活動活性化事業」を活用しているのは55の部活動。最近では部活動の無い学校も存在する。

▶文部科学省の調査によると平成28年に7,425件だった教育現場におけるカスタマーハラスメントの暴力行為は、令和2年には10,108件に増加。4割の教員が経験しているとも言われる。杉並区でも平成29年から学校法律相談事業を杉並法曹会の協力で5名の弁護士が関わっており、令和3年に26件、4年36件、5年には60件と相談件数が急増している。

小池 めぐみ (日本共産党杉並区議団)

杉並区の若者支援について

▶区の基本構想では「若者」に関する記述が少なく、就労支援や生涯通じての健康づくりという視点で触れられているだけ。15歳から29歳の区内人口は約17%と決して少なくない。区内の20代の生活保護受給者はこの4年間で143人から220人に、30代は367人から390人。このような状況にあって、いわゆる若者の包括的な相談窓口がないことを指摘。

答弁で区長は「子ども家庭計画」を見直して「子ども若者計画」として改定し、若者の参画や組織横断的な対応を可能とする考えを示した。



酒井 まさえ (日本共産党杉並区議団)

- ①介護について
- ②放課後等デイサービスについて
- ③都市計画道路補助133号線について

▶令和6年度より地域包括支援センターの体制強化のためケア24の委託費が増額された。これによって、20のセンターの中で16人の人員増が図られ、活動に必要な自転車などの備品購入を進めるなど活動に資する効果があったと評価されている。

▶放課後等デイサービスは現在区内29か所。杉並区では独自の補助制度で今年も7か所増加するなど、助成によって開設促進、運営のサポートを行っている。

山名 かなこ (れいわを耕す)

杉並区における包括的性教育と生命の安全教育について

▶令和5年度から「性教育」ではなく「いのちの安全教育」として、自分と相手のからだの大切さ、発達段階に合わせた内容、性被害や性暴力対策などについても触れている。正しい知識と行動選択のための包括的性教育の必要性とともに、その体制や教材などの課題、意見を述べ、区の見解を求めた。

ブランシャール 明日香 (緑の党グリーンズジャパン)

- ①街路樹から都市のみどりを考える
- ②気候区民会議のふりかえりとこれから

▶「緑の日傘」とも言える街路樹の役割とその維持管理に関わる税金について、街路樹マネジメント方針があっても良いのではと街路樹対策について言及。街路樹については東京都事業に該当する部分が多いが、令和6年度区予算では街路樹剪定などに1億1,800万円の予算が計上されている。

▶気候区民会議は今年3月20日から8月3日まで、6回の会議で毎回50～60名が参加。エネルギー、緑、交通などをテーマに意見が交わされ、33の提案にまとめられた。今後、区の気候危機対策推進本部で事業化について検討し、公表、見直しなどの手順を踏むこととなっている。

善福寺川上流調節池(仮称)に関するオープンハウス開催

9月5日、6日、8日の3日間、善福寺川上流調節池(仮称)の事業計画概要とこれまでの説明会等で寄せられた意見に対する検討状況の説明会が「オープンハウス」形式で開催された。コミュニティふらっと成田、荻窪地域区民センター、桃井第一小学校を会場に、資料展示や動画による説明、東京都および杉並区の担当部署職員が個別に対応する形でそれぞれ3～4時間、延べ327人(このほか名簿記入無しが

数名)が参加した。

本事業は今年3月に都市計画決定されており、武蔵野市側からの下水流入がある西荻北の原寺分橋(はらてらぶばい)付近、上荻の関根文化公園、成田西の善福寺川緑地に取水施設を造り、それを結ぶ環状八号線、五日市街道、女子大通りの地下にトンネル式調節池を設けるといったもの。工事は令和7年度から開始され、23年度で終了する計画。これまで複数回の浸水被害のあった善

福寺川で時間最大75ミリの降雨に対応することを想定している。

これまでに寄せられた住民意見の多くは公園の保全を求めるもの、樹木伐採に反対する声、工事車両や工事期間の交通に関するもの、環境への影響や施設、工法に関するものなどで、それぞれについて説明を加えた回答を公開。オープンハウスではその場で担当職員に説明を求め、さらに意見を伝えることもできるように配慮された。昨今の記録的な降雨や短時間のゲリラ豪雨などによる水害への備えが求められる一方、管理棟などの施設建設には用

地買収も必要で、事業の進行には地域住民の理解と協力が不可欠な状況となっている。



善福寺川(成田西付近)

荻窪駅南側地域

グリーンスローモビリティ、本格運行に向けて

本年5月27日から8月31日まで、荻窪駅南側地域で「グリーンスローモビリティ」の実証運行が行われた。杉並区は11月から運行開始を予定しており、荻窪駅西口～荻外荘(てきがいそう)公園～太田黒公園～桃井第二小学校～荻窪駅西口を周回する約



2.5kmの路線で、荻窪駅周辺の回遊性向上を目指す。12月に予定されている荻外荘公園の開園に合わせ、また令和8年度以降は荻窪地域区民センターへの運行も予定されており1周2.9kmの路線となる。

グリーンスローモビリティとは、電気自動車を活用した環境にやさしいエコな(グリーン)、最高時速20km未満でゆっくり走る(スロー)乗り物。定員5名のカート型、定員7名のバス型など小さな車両を走らせ、運賃は1乗車100円(大人、子どもとも、未就学児は無料)。スマートフォン等で現在位置確認ができるバスロケー

ションシステムの導入も予定されている。

3か月の実証運行は、9時から17時の日中で1日12便～24便を、キャピタルモータース株式会社が運行事業者となって実施した。期間中延べ2,773人が乗車(未就学児除く)、アンケートでは各年代が乗車しており、85%が今後も利用したいと回答。乗車した感想としては、「景色を楽しめた」「爽快感」「風を感じる」「移動が楽」と好意的な回答が多く、自由意見では「高齢者にとって便利」「子供が喜ぶ」「乗客同士のコミュニケーション」などの導入効果が期待されている。また、検証が必要と思われる



点として「運行頻度(席数が少ないため)」「暑さ」「停留所」「ベビーカー、シルバーカーを乗せる場所」「運行状況、空席状況の確認」などの意見が寄せられた。

杉並区では2023年3月に策定した「杉並区地域公共交通計画」に基づいて、他の地域でもオンデマンド交通や自動運転なども取り入れ、杉並産のMaaSの実現に向けた取り組みを進めていくことを目指している。

私たちは すぎなみ  えーす を応援します！

まちづくりを共に考える



有限会社トリエム

東京都杉並区阿佐谷南 1-34-6
新東京会館ビル



株式会社

アーバンファミリー

アフラック募集代理店
代表取締役社長 榎原裕記

東京都杉並区上荻 1-23-19-4A
東神荻窪ビル
Tel. 03-3391-8808



株式会社 渡辺一建設

東京都杉並区堀ノ内 2-32-4
Tel. 03-3313-3121

【MaaSとは】

MaaS(マース: Mobility as a Service)とは、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるものです。

国土交通省HP「日本版MaaSの推進」
<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/japanmaas/promotion/>

杉並・夏から秋へ

各地で
お祭りの
にぎわい

災害級と言われる暑さ、集中豪雨など、これまでに無いような大変な夏を過ごし、少しずつ「秋？」を感じるような風や虫の声に触れられるようになってきた。秋の例大祭や恒例の行事、お祭りなど8月から11月にかけて、区内各地で大小さまざまな季節の風物詩が繰り広げられている。

8月7日～12日
阿佐谷七夕まつり

8月24日～25日
高円寺阿波踊り

9月7日～8日
**白山神社例大祭
神明宮例大祭
和泉熊野神社おまつり**

9月13日～16日
大宮八幡まつり

9月14日～15日
**春日神社例大祭
堀ノ内熊野神社例大祭**

9月21日
**大宮八幡宮
十五夜の神遊が月の音舞台**

9月28日
郡上踊り in 永福北

10月25日～26日
阿佐谷ジャズストリート
※30回特別企画として、10月12日、25日にトークイベント

10月26日～27日
高円寺フェス

11月7日～10日
荻窪音楽祭
※情報をお寄せください!

♪秋が深まると、まちに音が溢れる…♪

10月25日(金)・26日(土)は
阿佐谷 JAZZ ストリート

阿佐谷ジャズ St. 愛が溢れて…

阿佐ヶ谷駅からほど近いミスティーパーズの君枝さんはお店に立つ時には阿佐谷ジャズストリートのTシャツがユニフォーム! お似合いなので、その姿を見て、毎年彼女から購入するお客様も多い。君枝さんは阿佐ヶ谷駅前のジャズの演奏を聴きながら、「お店でライブ演奏してもらえたら素敵」「ぜひうちのお店で」とすっかり魅せられてしまった。マスターのご主人に相談し、6年ほど前、2階に演奏スペースを設けて、ライブ演奏ができるように改装。マスターの美味しい料理と君枝さんの笑顔で楽しいお酒を楽しめるお

店に、音楽もプラスされた。

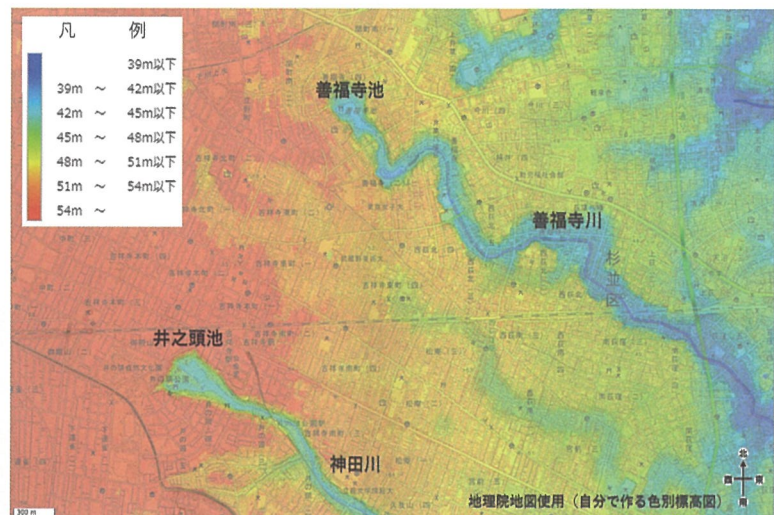
「ジャズストリートの日はお店が最も忙しい日、というのはずっと変わっていません。案内片手に次はどこの会場に行こうか、誰の演奏を聴きに行きたいか、とお客様が会話しているのがとても印象的でした。まさに大人のお祭り、という雰囲気がとても素敵で、大好きです。毎年Tシャツを購入していただき、年ごとに違うデザインのものを着て普段からご来店いただく方々も多く、私にとっては制服みたいなものです!」

(MISTY OPARS 田實君枝さん
阿佐谷南2-16-8)

杉並 **ジオ** 探索 連載②

杉並は多摩川が作った台地の上に位置しています。多摩川は現在、杉並の南方を流れていますが、およそ9万年前には広い範囲で流れており、非常に多くの土砂・砂礫を供給して武蔵野台地を形成しました。現在の多摩川がある位置付近に流路が固定すると、武蔵野台地の上には関東ローム層と呼ばれる赤土が積み、皆さんが生活している現在の地表面を形作りました。関東ローム層の赤土は粘土質であるため水を通しにくいですが、赤土の下に分布している多摩川が運んできた砂礫層は水を通しやすいので地下水が豊富にあります。地下の砂礫層の中にある地下水の水位が地表面と同

じ高さになると水が地表に流れ出します。杉並の中央を流れる善福寺川は善福寺池、南を流れる神田川は隣の三鷹市にある井之頭池にある湧水を水源としていました。地理院地図で標高別に色を付けてみると、これらいずれの湧水と池も水色と緑色の境界の標高45m付近にあります。地下水の水位と地表面が交わる標高が45mであり、水が湧き出して河川の水源になっていたことを示しています。しかしながら、現在は自然に地下水が湧き出すことはなく、ポンプで地下水を汲み出し、それぞれの池に水を供給しているそうです。地下水が湧き出なくなった理由は、湧き出地点での地下水位が標高45mより下がってしまったことを表しています。地下水位が下がってしまったのは、地表に降った雨水が地下に浸みこみにくくなったためであると考えられます。



(日本大学文理学部
非常勤講師
小俣 雅志)



ちよつとアシスト 将来の選択肢を増やしてあげたい

U君は「副籍制度」を活用して都立の特別支援学校と区立の小学校に通学します。「副籍制度」とは、特別支援学校に通う小・中学部の児童・生徒が地元の区立小中学校に「副次的な籍」を持って交流することを通じて、地域とのつながりを維持、継続できるようにする取り組みです。

今年の4月に小学1年生になったU君は筋力の発達に障害があり体幹が弱いので自力では座ることが難しく、呼吸器や経管栄養が必要なかたですが、ウルトラマンとYouTubeがお気に入り、明るく歌ったり喋ったり、友だちと関わることも好きな男の子。そんなU君に母・Aさんは「将来本人が希望する生活のために、選択肢を増やしてあげたい」との思いで、できるだけ地域や障害の有無に関

わらず他の子どもたちと交流できる機会を模索してきました。未就学時に呼吸器をつけて通える施設が区内に無かったときは、周辺市区の施設や地域の保育園に遊びに行ったり、積極的に行動してきました。そして2学期が始まったこの9月からは「副籍」のある区立の小学校にも通うことになりました。

U君はいま学校に通うことを楽しみに過ごしています。共に学ぶ子どもたち、環境を整えサポートする先生や保護者、地域の人たち一人ひとりが共生社会の担い手です。



「副籍制度」ではU君のように通学する直接的な交流のほか、ビデオレターやお便りなどの間接的な交流もある。まだ制度の認知度や理解、施設・設備的な制約など改善点はあるが、東京都教育庁の調査(令和4年度)によれば、交流をしている子どもの保護者の満足度は6~7割、もっと回数を増やしたいと望む声が多い。自然に顔の見える関係を築き、醸成していく交流が深まり、広がるように、地域のアシストも重要と言える。

コラム

新人記者の区政ウォッチ

区議会定例会は初日にまず「会期」を議決する。一応、予定はすでに公開されているが、「〇日から〇日までの〇日間」ということを決める。ちなみに国会は法で通常国会は150日となっている。

区議会の議論を聞く方法は、実際に区議会に足を運んでその場で聞く「傍聴」と、インターネットでの中継や録画を見る方法がある。傍聴の申し込みは、原則として会議当日、開会15分前から区役所中棟3階の区議会事務局で行い、区内在住でなくても誰でも可能。しかし、席には限りがあり必ず入れるとは限らない。また事前に予約する仕組みはない。

パソコンやカメラ、スマートフォンなど電子機器を使用する場合は、申請書を提出する。パソコンは、滑り止め用のマットを使い、タイピングの音が大きくならないよう注意が必要だ。議会の様子を撮影す

ることも可能。ただし、ライブ配信を行う場合は申請書にその旨のチェック欄があるため、事前に申請しなければならない。

インターネット配信は杉並区議会の公式ホームページから見ることができ、場所や環境を問わず視聴できることや、聞き逃した箇所を繰り返し再生することができたり、見たい箇所まで飛ばすことも可能であるため大変便利である。ただし、「本会議」や「予算・決算特別委員会」など、議員全員による会議だけが対象で、委員会については中継がないため、実際に足を運んで傍聴しに行く必要がある。

傍聴することによって、リアルタイムで起こっている区内の問題を知るだけでなく、議員の姿を直接にチェックできる。取材でなくても「推し」議員の姿をしっかりと自らの目で見ることも大切かもしれない。

(水田)



2025 年 6 月、河北総合病院（阿佐谷北）が新しく移転開院する。これにより、今まで分散していた病院の機能が統合され、地域医療への貢献が一層期待される。このシリーズでは、新病院における計画や地域に与える影響について、同院の各部門の医師や担当者に話を伺う。第 1 回目は、地域の救急医療を担う救急集中治療科部長の内野正人先生にご登場いただいた。（辰巳）



「二人主治医制」で 日常と緊急時の治療をサポートします

救急医療の現状について

コロナ禍のピークを過ぎ、多少の落ち着きは見られるものの、都内での救急車の受け入れ状況は依然として厳しいです。東京都消防庁のデータによれば、2023 年の救急車出動は過去最多を記録し、1 日あたり 2,514 件、約 34 秒に 1 回のペースで出動しています。さらに、この 5 年間で救急隊が現場に滞在する時間が約 10 分延びており、過去 3 年連続で延長しています。しかし、救急搬送された患者さんの 54.2% は診察の結果、入院不要の軽症と判断されています。このような現状を多くの方に知っていただきたいです。

新病院の開設で、救急体制はどのように変わるのか

2025 年 6 月、河北総合病院は現在の建物の西側に隣接する場所に新しく生まれ変わります。新病院の救急外来では、患者さんやご家族、医療スタッフの動線を見直し、より多くの患者さんを受け入れる体制を整えます。具体的には、必要な設備や機器を同じ建物内に集約し、緊急対応が必要な患者さんへの検査や治療をより迅速に行えるようにします。また、他の診療科との連携も強化されます。これにより、提供する医療の質が向上し、さらに多くの緊急患者さんを受け入れられるようになると思っています。

地域の皆さんに、この機会にぜひ知っていただきたいこと

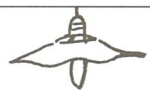
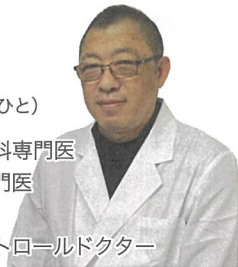
「二人主治医制」という言葉をご存じでしょうか？ これは、患者さん一人一人に最適な医療を提供するために、普段通われている「かかりつけ医」の先生と、私たちのような救急医や高度な医療を行う「地域の中核病院」の医師が連携し、継続的に診療を行う仕組みです。私たちは、この仕組みを杉並エリアにも広めたいと考えています。

日々の診療を通じて、都内でも高齢者の割合が高く、若い方も受診時にどの医療施設を選ぶべきか迷うことが多いと感じています。そこで、私たちは救急体制を整え、地域の診療所や病院との連携を強化し、患者さんに適した医療の場を提供するサポートを進めています。

救急や一般外来の混雑を適切に調整し、専門的な外来診療や入院が必要な患者さんを受け入れる体制づくりが地域医療にとって非常に重要です。この機会にぜひ「二人主治医制」について考え、「かかりつけ医」の先生と相談してみてください。

救急集中治療科 部長
内野 正人（うちの まさひと）

日本救急医学会 救急科専門医
日本外科学会 外科専門医
ICD 制度協議会認定
インфекションコントロールドクター



編集長のつぶやき



それぞれのエースの声を聴く

「社説」ということでもないが、編集発行人のつぶやきコラムとしてこれから毎号綴ってみたい。

この新聞発行の準備段階で、「紙名は何にするか」を社内外のスタッフ会議で話し合った。結論は『すぎなみ ace(えーす)』。社名が由来ではあるが、検討の過程で弊社の最も若いスタッフの一言で決めた。彼は「会社の理念にある“一人ひとり、みんながエース!”ということを活かしたい」とつぶやくように発言した。各地各所の「エース」(それぞれの分野で優れている、信頼されている人などの意)の皆さんの声や活

動に触れ、地域を知って、行動するヒントをお届けする新聞にしたい。それを聞いて創業者として心から嬉しかったとともに、紙面づくりの判断基準のひとつでもあると思った。

まちのいろいろなエースの声を聴ける会社、新聞でありたい。少なくとも、周囲からハラスメントだと言われても考えや行動を変えないような存在にはなりたくないものである。もちろん節操なく方針がコロコロと変わるのもいかなものか。それも新聞を通して見聞きして、読者に投げかけて一緒に考えていただけるような紙面に育てていかなければと肝に銘じている。

編集発行人 中田あかね

こんにちは！『すぎなみ ace』編集部です。

皆様からの情報提供や取材依頼、地域で活動する方々のご紹介などをお願いします。地元で行われている注目の活動や、もっと知ってほしい地域のニュース、特に印象的な写真など、何でも結構です。皆様の日常に溶け込む地域の小さな出来事も、大きなニュースも、取材して記事を作ってまいります。

【情報提供】地域のイベントや気になる出来事、お祭り、工事、新店舗のオープン情報などをお寄せください。

【取材依頼】皆様の活動やイベントの取材、人物インタビューをさせていただきます。

【写真投稿】地域の風景、イベントの様子、日常の一コマなど、皆様の目を通じた杉並区の魅力を共有してください。

緑との対話 【第二回】



「緑」や「樹」を大切にする、守り育てるとはどういうことか、株式会社大場造園（杉並区永福）会長・東京農業大学の非常勤講師の大場淳一氏のインタビュー連載第2回。

「最近、植え込みのツツジの花が少ない気がする」と思っていたところ、大場氏から「近年の日本の夏の暑さが、日本古来のツツジなどの植物を厳しい環境に置いている」という話を伺った。大場氏は先代から「植木と会話しないと駄目だ」と教えられたそうだが、いま私たちの周りの木々はどんな声をあげているのだろうか。（中田）

公園や庭づくりにおける環境を造る意識

この100年の気候変動を踏まえ、これからの姿を考える必要があります。

かつて各地で起こった「公害」問題に対して、国や関係者が真摯に向き合い、解決してきました。原因となるものに対して、改善、解決に取り組んできたのです。しかし、自然の環境変化に伴って起こっていることについては、誰がどのように責任を取って対処するのでしょうか。この 100 年の範囲で考えても気温や環境は大きく変化し、私たちは植生について「残したくても残せない」という現実に向き合わなくてはなりません。

東京都あるいは杉並区など行政では、緑被率、防災などの複数の観点、指標をもとに政策目標を設定し、緑に関する計画を推進しています。杉並区でも、官民協働で公園づくりを進め、緑のボランティア活動が展開されています。武蔵野の原風景や里山をイメージした公園づくりも進められています。

街路樹などの人工的に植えた樹木は長い年月を経て、樹木は大きく育っても環境に合わなくなり、枯れてしまうこともあります。植え替えなど、木や環境のために更新を考える必要があります。単に残すことだけが樹木のためではありません。

桜の代表種であるソメイヨシノは木としての寿命が60～70年とされ、戦後広がった各地の桜が寿命を迎えつつあります。木の中が空洞化して倒れることがあり、樹木診断等を行い、安全に保つ必要があります。

阿佐ヶ谷の中杉通りのケヤキ並木も、約 10 年をかけて樹冠（樹木の上の方の枝や葉が集まる場所）を再生する、あるいは木の本数を減らすなどの手入れを行い、並木としての姿を守ってきました。都市の緑は、防災や景観の意図を持って作られることが多く、造られた自然の姿とも言えます。街路樹のように狭いスペースに植えられた木は、いずれ枯れ、木自体がダメになってしまうことがあります。

木を残すべきか、植え替えなどで安全に更新すべきか。これからの 100 年を見据えて「環境を造る」という意識が重要です。

中杉通りのケヤキも時間をかけて地域の方々が話し合って、調整して今の姿になっています。そして次の段階に進むべき時期がまたやってきます。私たちの暮らしの中で、樹木とどのように向き合って環境を整えるのか、単に切らない、残すというだけでない、環境も含めて守り育てるという工夫が必要です。



中杉通りのけやき伐採

うちのエース!

Mさん/ウパちゃん

今回のエースはMさん宅のウーパールーパー **ウパちゃん**。年齢はまだ数か月です。当初5センチ程度の体長が、約半年で 20 センチ程に成長しました。水槽の大きささしだいではもっと成長することもあり、水槽の中に島を作ってあげると陸上でも活動できるようになるそうです。なお、性別は専門家でないと判別が難しいとのこと。

地元のお祭りにお子さんと一緒に出掛けた際、「金魚すくい」ならぬ「ウーパールーパーすくい」という出店があり、親子で「可愛い!」と一目惚れして連れて帰ったのが、このウパちゃんの先代の子。7年ほど飼っていましたが、2代目はペットショップで出会った今の **ウパちゃん**。

初代はピンク色、ウパちゃんは白色ですが、黒い子もいるのだとか。

Mさんによると、「水槽が汚れてくると顔に皺をよせて怒るんです」。無表情に見えますが、実は感情豊かで愛嬌のあるウパちゃんにご家族皆さん癒やされています。

（南方）



すぎなみ ace はこちらに
置いていただいています

...

株式会社興建社（荻窪5）
ミスティ・オーパース（阿佐谷南2）
おきやんち（阿佐谷北3）
さんじゅ阿佐谷（阿佐谷北1）
さんじゅ久我山（久我山3）

【団体の広報支援】NPO や地域団体の活動をサポートし、その取り組みを多くの人に知ってもらうお手伝いをします。

★広告や購読のご支援をお願いします。
『すぎなみ ace』編集部

メールアドレス：info@projectace.jp
電話番号：03-5364-9301